

[タイム] 遡行開始(8:00)→左俣出合(8:20)→中俣出合(8:30)→右俣終了・中俣  
下降開始(8:55, 9:05)→中俣下降終了(9:25)→左俣遡行開始(9:35)→  
左俣終了(10:20)

## 鬼ヶ煩沢支流ヌの沢

1989年5月28日

L:

天気曇。今日の目的の沢は、檜沢との合流点の少し上流で鬼ヶ煩沢に合流して  
いる無名沢(ヌの沢と仮称する)である。前日に少し遡行したのであるが、時間  
切れで断念した。結構大きな滝があり、期待できる。

身支度を整えて、遡行開始。出合には3mの滝がかかり、右岸を登る。そのあ  
と沢はいったん平らになり、次に8m, 5m, 3mと連なる連瀑が出てくる。そ  
う立ってはいないので、ランニングビレーをとっていけば直登できそうであるが、  
ヌルがついているのがいやらしい。私達は、左岸の草付に取り付く。ザイルを使  
って草付を慎重にトラバースして、滝上部へ。

その後、数本の小沢を合わせた後二俣となる。水量比は1:1。左俣には7m  
程の滝がかかっている。右俣の方が本流である。右俣は1~3mの小滝が適当に  
出てきて、飽きることはない。先ほどの二俣から約15分で、沢は再び1:1に分  
かれる。右沢には1mの小滝が2つ、本流である左沢には8m2段の斜瀑がかか  
っている。左沢に入って斜瀑を越すと、2段3m, 更に7mと次々に滝が出てく  
る。7mの滝は直登できそうになく、左岸のバンドめざして草付を登り、越える。  
八溝の沢はヤブ沢だと半分諦めていた私達だったが、思わぬ所で沢登りの醍醐味  
を味わうことができた。

5mの階段状滝を越えると、沢は再び1:1の二俣となる。私達は、下降のル  
ートを考えて、右沢にルートをとった。沢はもう源頭の様相をみせ、どんどん高  
度を増してゆく。途中、1mの小滝をみただけで水が濁れる。あとはヤブこぎを  
して、10時30分尾根筋に出る。10時50分、比較的広いジャンクションピークに立  
ち、現在地確認の後、リの沢(仮称)に入ったパーティと無線交信をして、ヲの沢  
(仮称)左俣の下降準備に移る。

(註)

[タイム] 出合(8:20)→源頭(10:10)→尾根(10:30)→ジャンクションピーク(10:  
50)

# 鬼ヶ畑沢支流ルの沢

1989年5月27日

L ..... 郎

天気晴。11時50分下降開始。5分程で沢に水が出てくる。この沢の両岸にはだ  
いぶ前にスギやヒノキが植林されていて、うっそうとしており、沢にはヤブがか  
ぶさっている。

5分程下った所で昼食をとり、下降を再開すると2m程の小滝が出てくる。こ  
の後左岸には比較的幅の広い造林のための作業路が出てくる。至る所寸断されて

